

Title	凡例
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1978
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.15上 (1978.) ,p.[1]- [2]
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000151-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

凡 例

一、本書は慶応義塾大学附属研究所斯道文庫蔵椎本文庫「夫木集緊要」、左の四部を影印したものである。

(イ) 橘守部自筆稿本

卷上中

二冊

(ロ) 橘冬照筆写本

卷上

一冊

(ハ) 橘浜子筆写本

卷上中下

合二冊

(ニ) 橘東世子筆写本

卷中

一冊

一、「夫木集緊要」は、その「大旨」の「簽凡例」に誌すように同集抄出歌に施す六種の簽を四色にて類別している。従って本影印は左の四種の記号を以って弁別することにした。

* 印—朱簽、* 印—藍簽、◎ 印—埴簽、○ 印—墨簽

一、附簽は凡そ一句から数句にわたるのであるが、右記号を附記する場合は各附簽の簽初の右傍又はその簽頭にのみ施し以下を省略した。

一、自筆稿本の附簽には、第一次の簽、第二次の補訂の簽が同処に重ねて施されているのがまま散見される。その際の記号は、上例に従い、同じく右傍又は簽頭に並記することにし、第一次簽は左側、第二次簽を右側とした。時に右傍上下に施さざるをえない場合には簽次に准じ上下に列記した。第一・二次簽が同色異種の場合も念のため同種記号を並記又は列記した。↓例(イ)・(ロ)参照

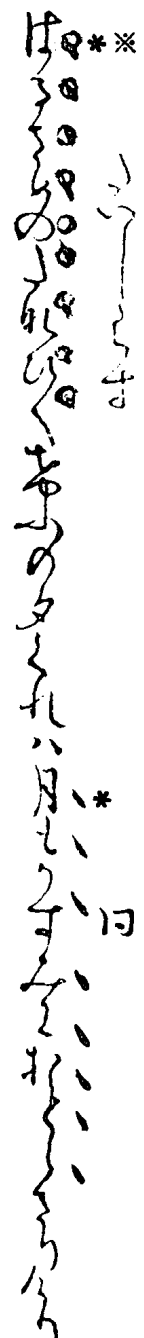
一、自筆稿本「大旨」の補訂箇処、抄出歌本文の校訂・書入れには朱墨筆が入り交るので、その朱筆箇処には前記の朱記号を施し区別することにした。猶「大旨」の補訂箇処に於て本行中に貼紙する処には「」圈内に当該箇処を示した。但し各本「大旨」の朱句点、各歌題の上に捺す朱○印は朱記号を附せず其儘とした。

一、「夫木集緊要」の「簽凡例」はあらためて掲出しませんが、自筆稿本と冬照・浜子両筆写本との間には相互に異同が見出されるので当該本を参照されたい。又、解題中にも述べたように、自筆稿本の附簽中には冬照筆写本以下の簽例によつて後補する処が散見されるので併せ留意されたい。

又、自筆稿本・冬照筆写本の附簽中には、この両本の「簽凡例」には見えぬ左傍に施された朱筆▽▽の簽が僅か見出される。その右傍が埴色であるので大凡の推定は可能であるが、俄かな判断はさけ此処に註記しておく。

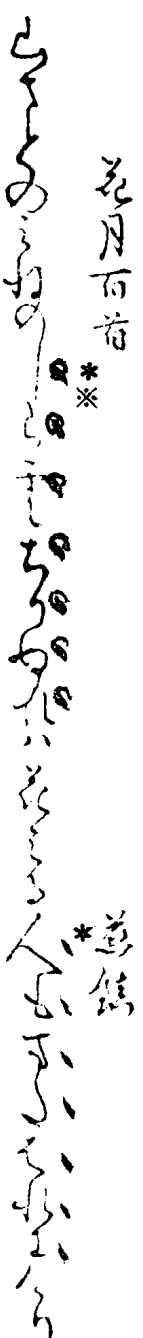
一、本影印に於て特に附簽の不鮮明箇処が尠なからず、努めて補筆したが猶各本を相互に対照されたい。

(イ) 並記例

はるさめのたなひく  (三十八頁)

「はるさめのたなひく」の簽次は第一次簽が朱、第二次補訂簽が藍○であることを示す。

(ロ) 列記例

花月百首  (四十一頁)

「しら雲ちりぬれ」の簽次は第一次簽が朱、第二次補訂簽が藍○であることを示す。